



麻しん(はしか)・風しんの 予防接種を受けましょう!

最近の麻しん(はしか)の 流行について

麻しんは、以前は子どものおうちに感染し、免疫を得るのが普通でした。しかし、近年は大きな流行がおこらず、大人になるまでに麻しんに罹ったことがない場合や、子どもの時に予防接種をした場合でも、大人になってから感染する例が目立ってきました。

平成19年に、10〜20代を中心に、麻しんが流行しました。その主な原因は、その年齢層が麻しんの予防接種を一度も受けていなかったか、一回は受けたが免疫を得ていなかったためと考えられています。そのため、平成20年度から5年間、従来の定期予防接種の対象者に加えて、中学1年生と高校3年生も麻しん・風しんの混合ワクチンを接種することになりました。

麻しん(はしか)とは どんな病気ですか?

麻しんはウイルスによって引き起こされる一般に小児期に多い急性の感染症で、高熱と発しんを伴います。

特效薬もなく、気管支炎、肺炎、脳炎などの重い合併症が発生したり、死亡する場合があります。麻しんは、とても感染力が強く、免疫のない人がウイルスに接すると、ほとんどの人が感染して発病します。

麻しんに罹らないためには、予防接種を受けることが唯一の方法です。

接種した人のうち95%以上が免疫を得ることができます。小さいお子さんほど重症化しやすいので、1歳になられたらなるべく早く予防接種をうけることをお勧めします。

風しんとは どんな病気ですか?

風しんは「三日はしか」とも呼ばれ感染しても症状は軽いと思われています。しかし、幼児期に感染すれば、軽いことが多いのですが、小学校高学年以上の人が感染すると、症状が重くなる場合があります。

風しんに罹らないためには、麻しんと同じく、予防接種を受けることが有効です。

風しんの予防接種は、感染の予防のほか、先天性風しん症候群の予防という大切な目的があります。

妊娠初期に風しんに感染すると、目や耳、心臓に障害のある子どもが生まれてくる可能性が高くなります。対象年齢になったら、早めに予防接種を受けましょう。

平成20年度の接種対象

第1期/生後12ヶ月以上24ヶ月未満の方(1歳児)

第2期/5歳以上7歳未満で、小学校就学の1年前から小学校就学の前日まで(年長児)

第3期/平成20年度に13歳に達する方(中学校1年生)

第4期/平成20年度に18歳に達する方(高校3年生)

■接種方法/第2・3・4期の対象の方は4月に個人通知を行います。どの対象の方も接種される場合は、委託医療機関に予約を行ってください。

■持参品/予診票、母子健康手帳

■接種料金/無料

■接種時期/麻しんは毎年春から初夏にかけて流行が見られますので、できるだけ6月までの接種をお勧めします。

※接種対象年齢外の方は、費用が自己負担になりますので、かかりつけ医と相談の上、接種してください。